



ストール W45

45×196cm+ フリンジ 2cm
綿 100%

税込 6,600 円 (本体価格 6,000 円)

ストール W24

24×196cm+ フリンジ 2cm
綿 100%

税込 3,850 円 (本体価格 3,500 円)

ストール W45、W24 展開カラー (共通)



豆紋り



七宝



茄子



市松



麻の葉

細番手の糸で、ストール専用の生地として織上げました。

綿100%、汗をかいてもご家庭でお洗濯でき、気軽に普段使いできるのが嬉しいポイント。室内での冷房対策にも。

柄がリバーシブルで出るため、服装に合わせてのコーディネートが楽しめます。

＊米沢織とは？



上杉鷹山公



山形県米沢市

山形県米沢市は、古くは伊達政宗や上杉謙信、直江兼続など、名だたる武将に由縁のある歴史的な土地で、江戸時代には米沢藩の城下町として栄えた町です。

米沢織は米沢で生産される織物の総称で、江戸時代中期に第9代藩主、上杉鷹山が財政改革のため、当時米沢で生産されていた糸を武士たちに織物に織らせて、付加価値の高い産業として発展させたことが始まりでした。

先染め細番手の糸を用い、高密度な紋織りが特徴で、現在はハイブランドの生地生産地として認知され、地元やファッション関係の人々には「米織 (よねおり)」の名称で親しまれています。

＊伝統を未来へ繋ぐ 山口織物鷹山堂有限会社

「米織小紋」は、山形県米沢市で三世代に渡って続く米沢織の織元「山口織物鷹山堂有限会社」により企画・製造・販売を一貫して行っています。

1923年、現代表の祖父 山口憲一が「山口織物」を創業。当時から最新のジャカード織機による絹織物の呉服地を製造する「機屋 (はたや)」とし、米沢の繊維産業の一翼を担ってきました。1950年代から呉服以外の製品として婦人服地の製造に進出。1990年には憲一の孫にあたる山口英夫が代々養ってきたジャカード織の技術のデジタル化に成功し、世界初のPCによる写真織の特許を取得。その技術により緞帳やタペストリー等の特注織物を手がけてきました。山口英夫の作る織物はアート作品として注目され、数々のアートコンペでの受賞やニューヨークのメトロポリタン美術館にコレクションされるなど、国内外で高い評価を受けています。

その後、1990年代のバブル崩壊、2000年代に入ってリーマンショックや東日本大震災などの影響を受け、米沢織の産地としての規模は縮小していきました。2012年にそれまでの技術を集結し「YONEORI in the life」(米沢織を生活に)をテーマとした独自のファブリックブランド「米織小紋」が始動します。今まで呉服や高級ブランドの素材として使われていた米沢織を現代のライフスタイルに合う身近なアイテムとして提案しています。現在「米織小紋」は山形県の特産品として広く認知され、米沢織の新たなジャンルを確立しています。そして2023年、創業100年という新たなステージを迎え、次の100年へ米沢織を「伝統」として繋ぐことが私たちの使命であると考えています。

カタログ、製品についてのご注意

- ・本カタログの製品は布製品のため、若干サイズが異なる場合がございます。
- ・印刷の都合上、カタログの商品写真と実際の製品の色合いが若干異なる場合がございます。
- ・掲載内容は予告なく製品の仕様や価格が変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

本カタログ及び掲載商品について、無断での複製・転載を禁じます。